

---

# 風船

白虎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

風船

### 【著者名】

白虎

【ZPDF】

Z0637A

### 【あらすじ】

ある少年の、幼い日の温かい記憶…

### (前書き)

初めて短篇書いて見ましたf^-^-; 感想なんかもらえたならやる気出るので、暇だったらお願いします^\_^(^-^)^\_v

子供の頃、デパートで貰った風船。

誰でも一度は空に逃がしてしまった風船。

あの日、小学生だった僕は大切にしていた風船を逃がしてしまった。  
…。

「明日は本当のお父さんとあひらうじやい。」

何を言つてゐるのかはわからない。

当然だ。その頃は、離婚なんてあんまり聞かなかつたし、ただ仕事でいなないんだつて思つていた。

いや、言い聞かせていただけなのかもしない… 本当はわかつてた。 もつ、帰つてこないんだつて…

朝、僕は起<sup>こ</sup>されて見知らぬ駅に向かつた。すると、昔見たおじさん  
が

「ごめんな

とだけ言つて泣きながら僕を抱きしめて來た。

僕とおじさんは、時間が止まつたよ<sup>う</sup>にしづらくそのまま動かなかつた。

どれくらい起つたかわからないけれど、おじさんは落ち着いたらしくて、

「行くか！」

と一言呟つた。

何処に行くんだろうと思こながらもおじさんにつこうつた。

そこはおつきな「パート」だつた。

人もたくさんいて、おじさんの手を放したら迷子になつてしまつ。

おもむりや売り場に着いて、おじさんは何でも買つてくれると喜んだ。でも、僕は欲しい物なんて何も無かつた。

するとおじさんは、

「じゃあこれだけでも。」

そうつられて風船を持つて來た。「ありがと。」

それだけつけて僕は黙つてしまつた。

おじさんは少し悲しそうな顔をして黙つてしまつた…。気付くと辺りは夕焼けに染まり、母親が迎えに來た事で、僕とおじさんはそれぞれの家に帰つて行つた。

おじさんはいつまでも、僕を見ていた…。

その帰り道、突然強い風が吹いて手に持つていた風船は、空に向かつて飛んで行つた。

何故か凄く悲しくて…よくわからないけど涙が溢れた…。

今思い返してみると、あの風船は、父にできた、ただ一つの愛情だったのだろう…。

ある少年の、幼い日の想い出。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0637a/>

---

風船

2010年11月17日14時49分発行